

## 協調性・柔軟性

尾道市立美木原小学校 校長：杉原 しのぶ【施設泊】県立福山少年自然の家

### 新たな人間関係を構築していく体験活動

#### 1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

美木原小学校は、平成 29 年度に 4 つの小学校が統合してできた学校です。学校が統合したことで、新たに人間関係を構築していくことが必要です。そのために、友達の良さを積極的に見つけていくようにさせています。

「山・海・島」体験活動では、集団での生活の中で、児童が元の学校での人間関係を引きずっている自分に気付き、仲間内の狭い人間関係の殻を破り、関わりが少なかった友達の新たな一面を見つけ、児童が人間関係を広げていくことができる児童を目指しました。

#### 2 「山・海・島」体験活動の概要

##### (1) 目標

「T r y ! ～やってみよう～」

- 学校や家庭、普段の学校では体験できないことを積極的に体験する。
- 新たな友達の一面を見つけることで、新たな人間関係を構築する。

##### (2) 3泊4日の主な内容

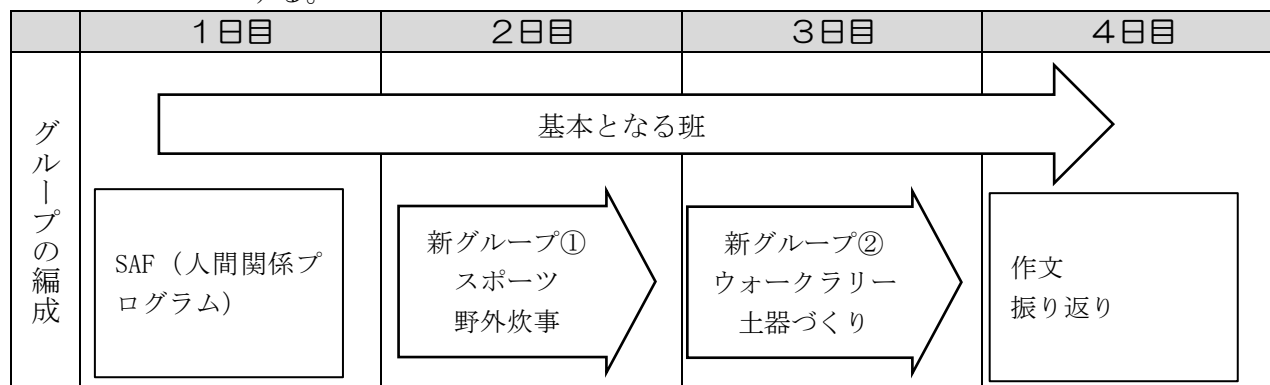
	午前	午後	夜
1 日目	入所式・オリエンテーション	SAF (人間関係づくり)	星空観察
2 日目	スポーツ	野外炊さん	スタンプ練習
3 日目	ウォークラリー	土器づくり	キャンプファイヤー
4 日目	作文	帰校式	

#### 3 体験活動の指導の工夫

##### (1) グループづくり

内容：3つのグループ編成を準備

指導の工夫：できるだけ同じ人と同じ班にならないようにし、多くの友人とかかわるようにする。



- 1日目に、人間関係プログラムを配置し、励ましたり、励まされたりする体験や仲間とともに失敗を克服する体験等を通して、協働することの意味を具体的に学ぶ。

- 2・3日目に、意図的に前日と異なるグループを編成し、新たなメンバーで体験活動を行う。
- 4日目に、これまで、それぞれのメンバーで行った体験活動を振り返り、自分が他者とどのように関わってきたかという観点から、自分が頑張ったこと、足りなかったこと、できたこと、できなかったことを振り返る。

## (2) 誰もが参加できる体験活動の選択

### ○体育的体験活動

内容：SAF（人間関係づくり）、スポーツ（カローリング）、ウォークラリー

指導の工夫：○体を動かすことが得意・不得意、技能の優劣、性別、体格、運動能力などに関わらず、自己の力を発揮できる場面がどの児童にも均等にあり、一人一人が役割を持って参加意識が生まれるような活動を選択する。

○各ゲーム・活動ごとに、作戦タイムを設け、グループの意思決定に全ての児童が参画できるようにする。

### (例) カローリング

カローリングとは、特別な技術や力を必要とせず、簡単なルールと使いやすい用具を用いて、子供から高齢者、性別、体格、運動能力、障害の有無を問わず、誰もが参加し楽しめるスポーツである。

作戦タイムを活用し、全員で分担して様々な角度からジェットローラの配置を正確に把握し、ジェットローラを投げるコースや、どのジェットローラをどの順番ではじき出すか等を相談して決める。



### ○文化的体験活動

内容：星空観察、野外炊飯、土器づくり、キャンプファイヤー

指導の工夫：○結果の優劣を競うのではなく、活動のプロセスを大切にし、相互によさを認め合える活動を選択する。

### (例) 土器づくり

○体験活動の目標を説明し、講師から一方的に情報を与えるだけの土器づくりにならないよう考える場面を設定するとともに、全員が参加できるように依頼する。

○現物の土器から、土器づくりの手順や作成方法、どのような道具を使っていたかを想像し、先人の知恵に気付かせる場面を設定する。

○郷土資料館から専門家を派遣してもらい、弥生土器の断面や焼き跡などを観察することを通して、弥生人たちが、どんな工夫をして土器を作成していたのか推測することで、弥生人たちの持っていた知恵・技術に挑戦する。



## (3) 自分が設定した目標を、共通の観点から振り返る

内容：事前にそれぞれの体験活動の目標を設定させる。

指導の工夫：○各体験活動の直前に、事前に設定した目標を見直して、修正させる。

○各体験活動の終了ごとに、振り返りの時間を設定する。

振り返りの3つの観点を設定

- ・一生懸命（最後までやり切ることができたか）
- ・安全（危険の回避）
- ・フェア（自分のためにもなり、みんなのためにもなるよう行動できたか、周囲への配慮、他者を肯定的に受容したか）

しおりの内容

《3日目：土器作り体験》目標

事前：教えてくださる方の話をよく聞いて、昔の人と同じような土器を完成させる。

当日：困っている友達がいたら、声をかけるようにして、全員が成功できるようにする。

○目標を達成できましたか？

学習のまとめ（感想・気づき・学んだこと等）

すぐにできるだろうと思っていたけれど、昔の人と同じように空気を入れないようにしたら、うすくなりすぎて形が悪くなり、自分が思うようにはなかなかできませんでした。館長さんが「何度でもやり直すことができる材料だから、失敗しても大丈夫。やり直したぶん、技術があがるから。」と言われました。同じように困っている友達にも、教えてもらったことを伝えながら仕上げていきました。



「〇〇君、すごい集中しとる！」  
「〇〇君のやつ、すごい！」

「〇〇君の土器は芸術品じゃあ。」  
「〇〇さんの土器はかわいいね。」

「えっ、見せて見せて！」  
「ほんまじゃ、すごい！！ 真似しよう！」



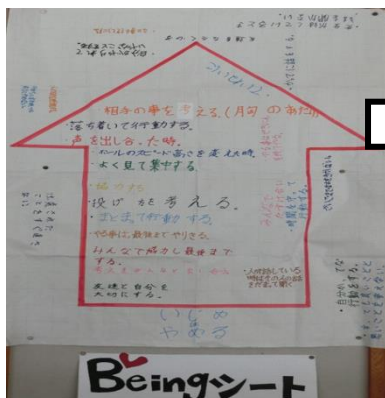
粘土で細長い形を作って積み上げていく方法をとることで、土器と同じ形が作られていくことを、実際に作りながら理解していきました。造形が苦手な子供もいましたが、作っていく内に、個性豊かな作品が出来上がりはじめました。お互いの作品を見合い、ほめ合う言葉もあちらこちらから聞こえてきました。お互いを認め合う、新たなその子の良さが発見できる活動になりました。

できあがった子から、自然と観賞会になりそれぞれできあがった作品の良さを確かめ合っていました。「〇〇君の芸術作品じゃ！」「プロみたいに仕上がとる！」「〇〇ちゃんのかわいいね。」それぞれぐるっと見て回る姿はとても楽しそうでした。

(4) 事後指導

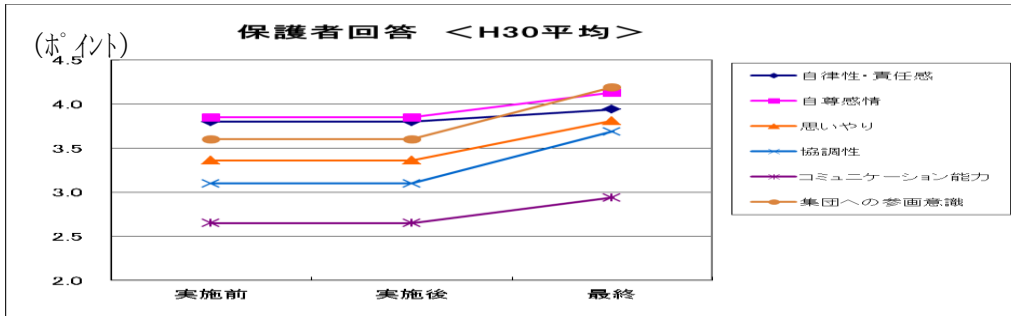
音楽コンクールに向けて、また、音楽コンクールが終わった後にも、Being シートに書き加えを行い、常に見えるところへ貼って意識できるようにしている。

「笑顔で楽しむ」、「最後まであきらめない」、「相手のことを思う」、「先生に言われなくても自分で行動する」などを追記した。



## 4 取組による成果

### (1) 保護者の評価検証アンケートにおける数値の伸び



保護者回答アンケートが、実施後から最終の全ての項目について、伸びを示しています。

### (2) 多くの人とかかわったことで得られた人間関係の改善

大切な一つのこと  
尾道市立美木原小学校 五年 坂上 照元  
「もう終わりのバスの中ですら思った。三泊四日の「山・海・島」体験活動は、毎日笑顔で過ごすことができ、すぐに終わってしまったように感じた。この宿泊学習で、これからも続けたいと思ったことがある。それは、「協力」だ。一人でできない事も、みんなで力を合わせればできることがたくさんあったからだ。」

「協力」をするために大切なことを、ぼくは二つ考えた。一つ目は、「おたがいのことをわかり合うこと」だ。宿泊学習の一日目、ぼくらはサーフプログラムをした。この活動の目的は、「友達との仲を深め、お互いをもっとわかり合う」ことだった。美木原小学校は、四つの学校が集まって二年目の学校で、僕たちもまた新しい友達と出会って二年目だ。去年よりはみんな仲良くなってはきているけれど、まだ少しみんながまとまっていないような気がしていた。サーフの活動では、言葉を使わずにグループで集まる場面があった。最初は、男女で分かれてグループができたり、仲の良い友達としかグループになれないでいたが、最後には男女関係なく、仲が良いも関係なく一つの輪ができた。最初は、みんな自分のことしか考えていなかったけど、一つの目標に向かってみんなで取り組んでいくうちに、みんなが相手の気持ちを考えられるようになってきたらと思う。今までであった自分さえよければいいという気持ちがみんなを考える行動に変わった。二つ目は、「何でも一生懸命にすること」だ。カローリングをした時、ぼくが、カローリングのこまをどこに投げると迷っていると、

「あそこに投げたら?。」  
「相手のこまをはじいたら?。」  
「ここに向かって投げて!」  
と、友達がアドバイスをしてくれたり、手伝ってくれたりした。そのおかげで、ぼくたちのチームは見事、優勝することができた。とても嬉しかったし、もっと友達と仲が良くなったような気がした。なぜ、友達はぼくを助けてくれたのだろう。それは、チームのみんなが一生懸命プレイしていた。ぼくを応援したいと思ってくれたからだと思える。ぼくも友達が一生懸命している所を見ると、自然と応援していた。一生懸命だったからこそ、力をもらったり、与えたりすることができたと思う。

宿泊学習では他にも、ウォーキングラリーや野外炊きさん、キャンプファイヤーなどたくさんさんの活動があった。振り返ると、「おたがいのことをわかり合う」「一生懸命」は全部の活動に絶対に必要なものだった。そして、この二つがきちんとそろっていたから、宿泊学習がとても楽しくて短く感じたのかなと思っている。

「みんな、音コンの練習するから、昼休みに集まってね」  
宿泊学習から帰ってきて、男女関係なく音楽コンクールの練習をしたり、何事も一生懸命に取り組むようになった。みんなが変わってきている。「協力」には「おたがいをわかり合う」「何事も一生懸命」の二つが大切だ。これは、校長先生がいつもぼくたちに言ってくれる「みんながやる、みんなでやる」という言葉にもつながっている。これからのこの二つの言葉を大切にして、もっといいクラスをつくっていききたいと思う。そして、来年ぼくたちが最高学年になったときには学校全体に広げていききたいと思う。

### (3) 事後の取組

宿泊学習で「達成感を感じた」「一生懸命になること」「協力すること」などを学習発表会や音楽コンクールなど、学校行事のたびに思い起こさせ意識の向上、統一を図ることができました。

本番当日。正直、私は子供達が他の小学校の演奏を聴いて緊張し、いつもの表現ができないのではないかと心配していました。しかし、ステージに上がってくる子供達の顔は本当にきらきらと輝いていました。そして、歌声はいつものように柔らかく、丁寧なリズムで素晴らしい歌声でした。子供達の楽しそうな歌声に、私も楽しくピアノを弾くことが出来ました。とても短い時間でしたが、とても幸せで気持ちの良い時間でした。

残念ながら結果は賞に入りませんでしたが、今までしてきたことは無駄ではありません。子供達は、音楽コンクールを通して「心を合わせること」の楽しさ、「協力すること」のすばらしさ、そして「次の目標を持つこと」の大切さを感じています。これは、音楽コンクールだけで使うものではありません。どこでも使うことができます。音楽コンクールを通して、また一つ、クラスの絆が増し、良いクラスになってきたように思います。

「実りの秋」を実感している毎日です。

音楽コンクールでのクラスの様子 (学年通信「TRY」)

最近、たくさんの場面で5年生の頼もしさ、やさしさを感じられることがあります。校長だよりも紹介されていましたが、約半年間お世話になったガードマンの長尾さんへの感謝の手紙を渡したのは、5年生でした。いつも登下校の安全を守ってくれていたことを当たり前と思わず、感謝の気持ちを持って、それを伝える行動にうなづいた子供達。素直にすごい!と思いましたし、嬉しく誇りに思いました。

「有り難い」の反対は「当たり前」です。全てのごことは「当たり前」ではありません。周りの人や物事に常に感謝する心を持っていきたいですね。そして、自分の気持ちをきちんと伝えられる子供達に、これからも育ててほしいと思います。秋の空のような気持ちの良い出来事でした。

感謝の手紙を送った児童の様子 (学年通信「TRY」)